

こんな活動です

子供が輝けば地域も輝く - 子供の居場所づくりから地域のつながりへ -

岩手県釜石市

活動名

鵜住居子どもひろば

関係する学校名

鵜住居小学校・栗林小学校

基本データ	学校支援活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	地域未来塾	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		0人	1人	9.3人	102日	19年度	有	無	有	
		実施場所		学習支援	放課後児童クラブとの連携					
		仮設団地談話室(集会室)		無	連携型					
土曜日の教育活動	総括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT活用	企業・NPOとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数		

体制図

【平成28年4月1日現在】
国庫委託「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」を活用し、釜石市が「一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校」に一部業務を請け負わせる形で実施。

- 釜石市(所管:教育委員会事務局生涯学習文化課)
↓ 一部業務請負
- 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
(選任・受け入れ)
 - ・地域コーディネーター(1名)
 - ・教育活動サポーター(3名)
 - ・ボランティア(適宜)
- (業務)
 - ・仮設住宅がある区域での安心安全な居場所づくり
 - ・地域性を生かした多様な体験活動の提供による学びの場の創出

活動の概要
「鵜住居子どもひろば」は、東日本大震災の甚大な被害により平成23年度から休止を余儀なくされ、学校や家庭から再開を求める声があったものの会場や多くの活動者も被災した中での再開は困難な状況にあった。そのような中、地元有志で結成された「一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校」において、仮設住宅等の狭隘な環境等の中でも子供らしく安心して生活を送ることを願い、平成24年度より放課後の居場所づくりを再開し、以後、コミュニティ活性化への寄与とあわせ、子供が企画・立案した「かまっこまつり」の開催や、地域住民の厚意により借用した土地を整備した「森あそび」等、地域との協働による居場所と学びの場づくりの醸成に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

○かまっこまつり

「子供たちがやりたいことをやる！」をテーマに、小中学生が主体となり、お店や遊びを企画・運営するまつりを実施している。(ヨーヨーすくい、スポーツ体験、雑貨屋、飲み物屋等)

○森あそび

地域住民から借用した土地を活用し、木々に囲まれた自然豊かな環境で開放的に遊ぶことができる場(遊具を含む)を整備した。

【実施に当たっての工夫】

仮設住宅での実施当初は、地域住民から子供の遊び声がうるさいとの苦情が寄せられたこともあり、如何にして子供の居場所を地域と共に考え理解を深めていくかを模索していた。こうした中、立場の違いを乗り越えて「子供のため」と大人の力を結集するため、平成25年度に仮設住宅の住民や保護者、専門家、行政等による「子ども安全安心検討委員会」を発足させた。当委員会において、子供の現状と共に、子供と大人が視点を並べて共有体験をする場を設けることが先を見据えた子供のため、地域のためになることを共有したが、これらの過程から生まれたのが「かまっこまつり」であり、「森あそび」の経過とあわせ、先立っての地域とのより良い関係性を築いていたことが根底にある工夫である。

● 事業を実施しての効果・成果

「かまっこまつり」では、使用する通貨や商品、看板の作成、接客の練習に至るまで子供たちが主体となって準備から当日の運営までを行うことにより主体性を育てている。また、多くの地域住民が参加しており、顔が見える関係のもと地域ぐるみで子供を育てる環境の醸成につながっている。「森遊び」では、ひろばのある日は子供から来所するなり「いつ行くの〜?」と声が寄せられる等、自然豊かな環境で遊ぶ子供たちの姿が地域を明るくしているほか、子供たちもまた、広い空間で心や体が開放されることにより、発想力や新しい物事に取り組む力の向上につながっている。また、森は「くりりんのもり」の愛称で、他の子育て支援団体によるイベントが開催される等、地域を超えて親しみがもたれている場となっている。

● その他

2箇所の仮設住宅談話室(集会室)で実施しているが、この内1箇所は集約に伴い平成29年度より場所を変えて実施する(公共施設を予定)。充実した環境で子供との関わりによる地域のつながりの強化を図るとともに、大人の話ではなく、子供もまた復興や地域づくりを担う存在としてより表に立っていくために、当活動の定着・広がりが期待される。



(森あそび)
自然豊かな環境でいきいきと遊ぶ子供たち



(かまっこまつり)
練習を重ね美味しいクレープを焼く子供たち